

# ふるさと応援団木島平会会報

## 協働のフラワーロード みんなの力で!

7月2日、村の入口にあたる国道403号線沿いの約400メートルの花壇にサルビアを定植しました。この花壇は昨年まで市之割地区の老人クラブの皆さんが約20年間にわたり管理されておりましたが、今年から村の玄関口の花壇は「大勢の村民の皆さんの力で」との想いから「協働のフラワーロード」と名付け、ボランティアを募って管理していくこととなりました。当日は、村民の皆さんをはじめ、下高井農林高校の生徒や花壇近くの地元企業ら約70人が参加し、4千本のサルビアの苗を植えました。参加者の中には「今後も大勢の皆さんの力によって誇れるフラワーロードとなるよう頑張つて管理を続けていきたい」との声もありました。

皆さんも村に訪れた際は、是非この「協働のフラワーロード」をご覧ください。



すばらしい「ふるさと木島平」 高木 弘（山口出身）

昭和三十三年、木島平中学校卒業生は、百九十二名もの卒業生がいました。今、ふるさと木島平では3校の小学校を1校に統合されようとしています。今では考えられない多くの児童がいました。多分先輩、後輩の方々も同様であったと思われれます。特に中学校から南に望む高杜山、西に斑尾、妙高山の眺めが素敵です。さて、十八年間育つたふるさとの四季を振り返ってみよう。

【春】残雪の間から芽を吹く「フキノトウ」を見ると、長い冬からやっと春を感じたものでした。今も近くの直売所でフキノトウを見つけるとすぐに手に入ります。独特の苦味がありますが、アク抜きしてきざみ、砂糖、みりん、味噌と油で炒めた「フキノトウ味噌」のほろ苦さが味噌とよく合い、ご飯が進みます。川辺のセリ、ねこやなぎ、村花になっている福寿草、またゼンマイ、タラの芽、ワラビ取りでシーズンになると毎週のように山を駆け巡っていました。

【夏】田んぼに飛び交うホタル（一時構造改善によりホタルも激減しましたが現在、柳久保では復活しています。）幸い田舎の実家の庭の池では飛んでいます。夏休みはプールがない時でしたから樽川で泳ぎ、冷たくなると石の上で暖をとったり「箱メガネ」で川底をのぞきやすでカジカ、岩魚、山女を捕りました。また夕立後の増水により浅瀬によつたところを網ですくい取ると20〜30センチ位の岩魚、山女がよく捕れました。しかし残念ですが現在、カジカは全然目にしません。台所洗剤等が影響しているようですが、下水道も完備していますのでホタル同様復活を期待しています。

【秋】ナラタケ、クリタケ、しめじ等のきのこ狩りが楽しみでした。このは毎年同じ場所に出るので秘密にしていました。稲刈りの手伝い、稲刈り後の田んぼ早朝の露を浴び動きの弱くなったイナゴ取り、佃煮にしていたいただきました。今も地方に出かけた時、珍味としてビン詰めにされたイナゴを見ると懐かしく思います。お菓子のなかった当時、柿の木が家々にあり良く食べました。また、渋皮はよく夜なべして皮をむき、干し柿作りを手伝いました。お陰様で今では果物の皮むきは上手いものです。食生活豊かな現在、少子化等により赤く熟した柿は鳥の餌になっているようです。写真の被写体に素晴らしいです。

【冬】高杜山に3度雪が降ると本格的に雪が降ると言われていました。雪が降ると各家では雪踏みを行い道をつくりました。お正月の道祖神祭り、かまくら作り、スキーと楽しい思い出です。四季の感じられる素晴らしい自然に恵まれた木島平をふるさとに持つていることを誇りに思っています。

## ☆区民の声☆ 元気な活動や自慢、今後の展望を紹介

### 西小路区

地区のテーマ  
(将来像)

みんなが住んで  
良かった西小路

西工事は旧西区と小路区が合併して今年で34年。当初は83戸315人でしたが、現在は73戸228人に減少。区の主な行事は、算額で有名な瑞穂神社の春と秋の祭典、区民球技大会、区民祭などです。特に区民祭では農産物の品評会や販売、バザー、ゲーム、作品の展示、喜寿と出生祝いなど区民が大勢参加して賑やかに催しています。

また、区では歴史的にも由緒ある建物や史跡、遺産をもう一度見直し、後世に長く残すことが区民の大切な役目だという認識に至り、次のことに取り組んでいきます。

蜚の棲む水路の改修工事は環境（自然）にやさしい工法で、また道路改良工事も同様の工法を取り入れて実施。由緒ある菓師堂とその周辺の整備、真宗寺跡地の周辺整備と活用（桜林の復活）計見誌等の文献と言われを知る人との学習会の開催。西四つ角周辺整備、区内の遊休荒地整備と活用などです。

当区では、あの合併当時の元気で活力あふれた頃の区の復活を求めて、区民一丸となりテーマ実現のためがんばります。



▲西小路区の皆さん（平成16年 御柱祭にて）

## ルクセンブルクから「デュルマジック」来村

6月24日、木島平中学校でルクセンブルクの人気アンサンブル「デュルマジック」コンサートが行われました。デュルマジックの2人は大使館のナショナルデーに参加するために来日しましたが、村との交流も深いことから今回、村に訪れてくださいました。ヨーロッパの伝統的楽器「ニッケルホルン（鍵盤ハーモニカ）」やギター、バイオリンを使って約1時間熱唱。会場で聴いていた小中学生、村民らも最後には手拍子をしたり一緒に歌ったりと素晴らしい音楽に感激した様子でした。

言葉は通じませんが、感動をあたえる音楽には国境がないことが改めて感じとれた貴重なひと時となりました。

